

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほのかのおひさま			
○保護者評価実施期間	R7年11月1日 ～ R7年12月1日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (児童発達) 28 (放デイ)	(回答者数)	3 (児童発達) 21 (放デイ)
○従業者評価実施期間	R7年11月1日 ～ R7年12月1日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月13日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい特性に関係なく、いろいろなご利用者が集うことのできる場を提供することができている。	職員配置を手厚くしている。支援内容、活動内容について職員間で話し合い、ご利用者個々に合わせた提供方法、参加方法の工夫を行っている。	事業所での良い取り組みについて他の事業所や地域に知ってもらうことのできる機会を作る。
2	研修の機会が充実している。	年間研修計画を作成し、職員個々が目標を達成できるよう、研修の案内を行っている。研修に職員を派遣することにより、職員が不足する場合は、法人の他事業所からの応援をお願いするなどの配慮を行っている。	研修で学んだことを活用したり、アウトプットしたりできる機会の提供を積極的に行っていきたい。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所やこども園、放課後児童クラブや児童館など、地域の中で他の子どもと活動する機会がない。 地域に開かれた事業所運営ができていない。	医療的ケア児や重心児の中に感染に弱いご利用者が多く、どうしても感染のリスクを考えるあまり、地域との交流の場を避けているところがある。	感染のリスクが少ない時期を選んだり、出向いていくことが難しい場合は来所してもらったりするなど、工夫して実施する。まずは、地域の同じような事業所との交流から始め、そこから広がっていくとよいと考える。地域のお店や公園などに出かけ、事業所を知っていただく。
2	保護者同士やきょうだい同士で交流する機会を設けることができていない。ペアレントトレーニング等の取り組みができていない。	児童発達の参観日や放デイ卒業生の茶話会は行っているが、交流の場や支援の場と問われると不十分である。	保護者同士でゆっくり話をする場を設けたり、きょうだい児の参加できるイベントを企画したりなどを今後検討する。ペアレントトレーニングの研修をまず職員が受ける。
3	安全計画に沿った研修・訓練や避難訓練などの実施状況が、保護者に周知されていない。	決められた訓練や研修を適切に行っているが、保護者に周知することができていない。	訓練や研修の実施報告をホームページやSNS等を利用して発信する。